

K O Σ M O Σ

Vol. 14, No. 2 (No.46)1979. 7. 5

雑感	1
学組・井上門了と妖怪	2
視聴覚室からのお知らせ	3
ぶらざ・で・りぶろ	4
書誌の御案内	5
各館だより	6
館内だより	8



雑感

工学部分館長 及川 浩

十年ばかり前の夏のことだ。夜行列車を盛岡で降りて、宮古行の始発を待つ間駅前広場をぶらぶらしていた。まだうす暗く人気のない広場の風はさわやかだった。ベンチで持参の握り飯をほおぼっていると、どこからともなく黒っぽい上衣を着た無精ひげをはやした男がやってきて、「旦那、一つください」と手を出すので、さし出すと、たちまち平げてしまい、なかばひとりごとのようにぼそぼそと話しはじめた。

「おれは小さいうちに両親を亡くして北海道の伯父のところへひきとられた。伯父は牧場をやっていたが、因業なやつで、朝早くから夜遅くまで働かせて、飯は二回しか喰わせない。腹がへるので牛乳を盗み飲みしたらえらいけんまくでどなりつけてなぐりやがった。

ろくに飯も喰わせずにどなりちらして人をこき使うのと、子供が牛乳を盗み飲みするのと、どっちが悪いんだ。

こんなことが何度もあったので、おれは牧場をとび出して、今までこんなことをしてくらしている。今は夏は北海道、冬は九州と渡り歩きながら、駅や町かどにころがっているジュースやビールの空き罐をひろったり、旦那みたいな人にねだったりしているのさ。もう一つください。

駅員はおれをみつけると追い出すが、おれは空き罐を片付けてやっているだけで誰にも迷惑をかけてはいない。奴等の云う規則なんてものは奴等が勝手にきめたものだ。だいたい駅長なんて奴は悪い奴だ。「長」なんて肩書の付く奴はたいい悪いことをしてきた奴だ。

おれのいとこで裁判官をしているのがいるが、あいつも悪い奴だ。おれたちの仲間が、ちょっとした盗みを見つかり、とっつかまえてしぼるが、もっと大きい悪人はつかまえない。その大きい店のおやじなんぞは役人を買収しているが、つかまったことなんか無い。役人も買収されてインチキをやりながらだんだんえらくなっていくのさ。

今の世の中でえらそうな顔をしている奴はみんな悪人だ。おれが汽車のただ乗りをしたって国鉄は損をしていないのに、みつけるとたたき出しやがる。だがおれだって二十年以上やっているから、めったなことではつかまりやしねえ。どこへ行くにも金なんか払わねえさ。」

(8ページへ続く)

学祖・井上円了と妖怪

『君はお化けを見たか!』

まだ見たことがない人は、すぐに、学祖井上円了創設の哲学堂へ直行せよ。

西武新宿線、新井薬師駅下車、徒歩10分。or. 池袋駅西口発、中野駅行バス、哲学堂前下車、徒歩1分。ここ哲学堂の正門である哲理門は、別名「妖怪門」とも言われ、左右に、なんと、天狗と幽霊の像が置かれているのです。知っていましたか？ この夏は是非、哲学堂のうらめしそうな顔をした幽霊と「御対面」。ヒンヤリしてみたらいかがですか。(老婆心ながら、懐中電燈持参の事。)

というわけで、今回のコスモスでは、井上円了と妖怪(もしくは、お化け)の関係について特集を組んでみました。どうぞ御一読下さい。

円了と妖怪

工学部教学課長 世良民平

今年もまたお化けの季節がめぐってきた。

お化けの話題は、インベーダーなどその名を変えながらも、今も昔と変りはないようである。お化けについてはなんの知識も、興味もない私に、本学の創立者である井上円了先生に若干の係りをもつという理由からか、標題について書けとのことで、断り切れずに、勉強のつもりで請けてしまった。書きはじめて困惑し、うまく妖かされていたことに気づいて、後悔の念しきりである。

さて、井上円了とお化けであるが、円了は本学の創立(明治20年)当時から、多くの「妖怪」に関する著述を公にして、お化けの研究者としても全国に知られ、「お化け博士」、「妖怪博士」とまで呼ばれた人であった。

この円了の妖怪研究は、単なる興味本位の、サイドワークでは決してなかった。このことは井上円了の代表的な著述である「妖怪学講義」全6冊にさっと目を通しただけでも瞭然とする。本稿ではこの著作の諸言を中心に、円了が「妖怪」について、どのように考えていたかをみてみたい。

まず「妖怪」とは何か。通常、「普通の智識にて知るべからず、尋常の道理にて究むべからざるもの」で、これは現代のわれわれの常識とも一致するが、円了の場合さらに、この「普通の知識、尋常の道理とは何ぞや、従令知識道理に高下の別ありとするも、如何なる標準を立てて此の分界を定むべきや」と論究し、「知るべからず、解すべからずと云て止むるより外なし」となる。

そして「人智の関する所は、何事も四面めぐらすに、不可知の境壁をもってすることを記せざるべからず」の前提に立ちながら、「妖怪」の可知、不可知をも包括する研究を目指し、当時の知識、学問を総動員、駆使して「お化け」に挑戦した。この成果を、哲学を基礎とし、理学医学などの諸学を組織した一つの学問体系、「妖怪の原理を論究して其現象を説明する学」=妖怪学として提起したい。

この妖怪学によって、「妖怪」は假怪と真怪に二分され、前者はさらに物理的妖怪(物怪)と心理的妖怪(心怪)に分けられるが、いづれも人知によって究明可能な不思議なものである。後者は人知のおよばないもの、宇宙六合を統轄する大怪物であり、これは假怪を徹底的に究明するなかで判明するもので、円了はこの真怪の明示こそ、妖怪研究の究極目的であると述べている。それだけにこの大怪物について懸命に論述している。

しかし、今の私にはこの分類と假怪の論究記述は理解できても、真怪については難解で、そこに非常な宗教的なものを感じのみである。そして、このように円了の妖怪研究をみると、これが世間一般で評価されているような、単純な迷信打破ではなく、その役割をも十分果たしながら、そこからもっと深い、人間の観念や情念の世界の法則性といったものを探索していたように思えてならない。

また円了にとって、文明開化の当時にありなが

ら、なおいまだ「迷裏に彷徨し、苦中に呻吟する者多」く、この民衆に学問知識をもって光明を与えようとした、そのための妖怪研究であった。そしてこの研究を通じ、「国家の隆盛を助け」ようとした精神は、哲学をもって本学を創設したものと同根であった。

あらためて百年後、われわれの科学や文明に対する常識・信念（無限に人類の幸福を保証するもの）が、諸公害の発生、相つぐ原子力発電や航空機の事故、社会体制やイデオロギーへの失望などを経験するなかで、動揺していることを想うとき円了の假怪を考えざるをえない。現代の常識も假怪の一つだとすれば、真怪の開けるのが、ますます遠のいているということになる。

暑中、古めかしくみえる円了の妖怪研究の著作に、ぜひ接する機会を把んでほしいと思う。

参考

妖怪学（巧人社、昭和8）第1巻によれば、井上円了が講ずる所の妖怪とは、次のようなものである。

- 理学部門 天変，地異，奇草，異木，妖鳥，怪獸，異人，鬼火，竜燈，蜃気楼，竜宮
- 医学部門 人体異状，癲癩，ヒステリー，諸狂，仙術，妙薬，食合，マジナイ療法
- 純正哲学部門 前兆，予言，暗合，陰陽，五行，天気予知法，易筮，御蘭，淘宮，天元，九星，幹枝術，人相，家相，方位，墨色，鬼門，厄年，有卦，無卦，縁起
- 心理学部門 幻覚，妄想，夢，奇夢，狐憑，犬神，天狗，動物電気，コックリ，催眠術，察心術，降神術，巫覡
- 宗教学部門 幽霊，生霊，死霊，人魂，鬼神，悪魔，前生，死後，六道，再生，天堂，地獄，祟，厄払，祈禱，守札，呪咀，修法，靈驗，応報，託宣，感通
- 教育学部門 遺伝，胎教，白痴，神童，記憶術
- 雑部門 妖怪宅地，怪事，怪物，火渡，魔法，幻術

妖怪学・おばけ関係文献目録

- 井上円了著
- 妖怪学講義 哲学館 明治30

- 妖怪玄談 哲学書院 明治33
- 妖怪叢書 哲学書院 明治34~37
- おばけの正体 丙午出版社 大正3
- 妖怪学 巧人社 昭和8

省エネルギーのこの夏休み、「口裂け女」と妖怪学の関係について研究してみるのも、涼しくなる一つの方法かも知れません！以下は、円了の著作ではありませんが、一般的なお化けの本です。興味のある方はどうぞ！

- 江馬務著作集 第6巻 日本妖怪変化史 中央公論社 昭和52
- 早川純夫著 日本の妖怪 大陸書房 昭和48
- 平野威馬雄著 お化けについてのマジメな話 平安書店 昭和49
- 今野円輔著 怪談 社会思想研究会 昭和52
- 今野円輔著 日本怪談集—幽霊篇— 社会思想社 昭和44
- 池田弥三郎著 日本の幽霊 中央公論社
- 沢田瑞穂著 鬼趣談義 図書刊行会
- スージー・スミス 世界の幽霊 大陸書房
- 早稲田大学図書館紀要 13号 1972・3 悪魔学主要文献解題 p.1~
- 定本柳田国男集 第4巻 怪談集 筑摩書房
- ユリイカ 6巻9号 1974.7 オカルティズム主要参考文献一覧

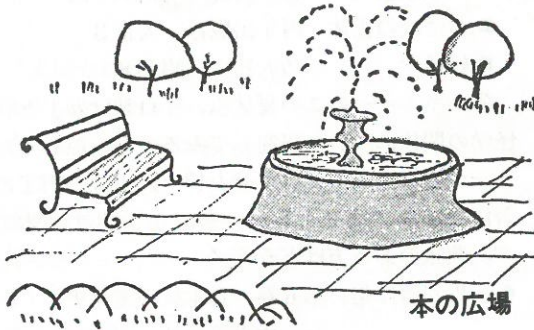
■■■■■■■■■■視聴覚室からのお知らせ■■■■■■■■■■

☆音楽レコードの貸出を開始（LP2枚 1週間）いよいよ待望の音楽レコードの貸出は、本年度5月14日より実現の運びとなりました。初年度はクラシックとポピュラーの人気LPを各々50種ずつ選び、追加として、保存用ポピュラー・レコードの中からベストヒットものを抜き出して、皆さんの利用に当てました。

◎使用上の注意としては、大切に扱い、ほこりをふきとって返却して下さい。

☆夜間開室を増加（毎週木曜p.m.6:00~8:00）今まで毎週火曜のみを夜間開室日に当ててきましたが、6月7日(木)より更に木曜を加え、今後は毎週火・木の2回、p.m.6:00~8:00まで夜間開室し、個人利用、資料貸出および団体利用（5名以内）のサービスを行います。

ふらぎ どりぶろ



大型本特集

大型本とは、図書館の普通書架に入らず別置して配架してある本の事を言い、おおよそ35cm以上のものです。三館それぞれの大型本の中から何点かを採り上げて説明を加えました。利用される時の手がかりの一助になれば幸いです。

工学部分館

茶室おこし絵図集 堀口捨己 監修
墨水書房刊 (37×51cm平均厚5cm)

おこし絵図とは平面的にたたまれた図面を起こしていくと立体的な空間模型になるもので、日本では江戸時代からあるものである。どんなに複雑な立体(空間)でも折りたためるし、また複雑な空間ほどおこし絵図の対象に適している。複雑微妙な空間は平面上に描かれた図だけでは頭の中にその立体的な様子を思い浮べることは難しい。程度の差こそあれ専門家といえども同様である。素人にも分かりやすく、専門家には空間の微妙なひだを伝え、何回でも組立て、折たたみできる。持ち運び・収納も容易な日本の知恵——これが和紙に墨書きされたおこし絵図である。おこし絵図が茶室に関して多く残っているのは、茶室という極限に凝縮する空間、複雑で微妙な空間、完結性を重んずる空間の記述に最も適した方法だったからだと言えよう。

おこし絵は最も単純なものは床用の台紙に貼りつけた四方の壁を起こすだけのものである。複雑なものになると、床に段差のあるもの、階段、天井、屋根、庇、縁側、欄干、出窓、付書院、床の間などさまざまな空間に凹凸をもたらす要素が組

み込まれている。建築の専門家でもおこし絵図で天井を組みこんだものがあるとは思っていない人が多いのではあるまいか。

さて、おこし絵とはどんなものかはこの位にして「茶室おこし絵図集」の説明に移ろう。

茶室おこし絵図集は茶室研究の第一人者である堀口捨己博士を監修者としてまとめられたもので、全十二集、帙入りで全部積上げると約60cmの厚さにもなる大型豪華本である。刊行は昭和38年から42年までかかり、限定1,000部出版である。収録された茶室は50点で、各所に秘蔵されている江戸以降の主要な茶室おこし絵のほとんどを収めている。

帙は竜村特製の利久緞子(各集色ちがい)で表装され、表題は篠田桃紅の書を金箔押ししたもので、おこし絵は特注のすかし入り手すき和紙を用い、表裏両面印刷の上ナイフで形を切り出すという正に一枚一枚が手作りの本である。

おこし絵図集は各集とも3~5点の茶室についての論文とおこし絵および写真集が収められており、論文は堀口捨己、中村昌生、稲垣栄三など、写真は渡辺義雄、坂本万七、多比良敏雄、などの手になるものである。

当時、私は堀口研究室に助手補として勤めており、一冊の値段が月給の約2倍もするので、果して12集全部を買えるだろうかと思いつつも一大決心をして申込んだものでした。また今は明治大学講師の木村儀一君などは当時学生で墨水書房の新設した工房で泊りこみながらおこし絵のキャプションをしたものでした。

極めて学問的でありながら同時に芸術性を重んずる堀口捨己先生と良い本を出すことに打込んでおられる北沢繁太郎さんのすばらしい組み合わせが生み出した本。考証・考究は厳密で、書物としては、凝りに凝った、名実ともに後世に残すに耐える本だと思います。ぜひ一度ご覧下さい。

(建築 上杉啓助教授)

朝霞分館

朝霞分館の大型本は、書架区域の一番奥で、ひっそりと皆様の利用をお待ちしております。図体が大きくて、棚からはみ出していますので落さないように大事に取り扱ってください。

内容は、絵画、風景、絵巻物その他といったもので、カラー・モノクロ写真など、日本の印刷技術を駆使したすばらしい本です。

単行書 38冊

叢書 12セット 255冊 計 293冊

江戸時代図誌	全27巻	筑摩書房
原色日本の美術	全30巻	小学館
現代世界美術全集	全25巻	集英社
原色世界の美術	全16巻	小学館
現代日本美術全集	全18巻	小学館
日本絵巻物全集	全24巻	角川書店
現代日本建築家全集	全24巻	三一書房
日本絵巻大成	全27巻	中央公論社
書道全集	全28巻	平凡社
水墨美術大系	全15巻	講談社
世界素描大系	全4巻	講談社
現代の陶芸	全17巻	講談社

白山.....

1. 「日本言語地図」国立国語研究所編，大蔵省印刷局 昭和41～49年（810.5：K-2）
2. 「日本の方言地図」徳川宗賢編，中公新書，昭和54年（整理中）

同じ物について違ったことばを使ったり，東北と九州の人が意外に同じことばを使ったりすることがあります。こうした方言の分布状況を，現地調査にもとづいて地図の上に描いたものが「日本言語地図」です。ことばの地域による相違とことばの変化の歴史を知るための手がかりになります。この本は高価で，すでに入手しにくいものになっていますが，これをもう少し簡単にし，一般向けのわかりやすい解説をつけたものが最近出版された「日本の方言地図」です。

図書館学専攻生作成 書誌の御案内

—その1—

論文やレポートを書くとき，そのテーマに関する参考文献を探し集めることは基本的な作業のひとつです。現在参考図書として，そのための書誌が備えられていますが，それ以外に図書館学専攻生の作った書誌があります。この書誌は専攻生が卒論にかわるものとして，一年間をついやして作成したもので，昭和50年作成のものから図書館で

借用し，文献探索のツールのひとつとして利用を計っています。カード形式のものは参考雑誌室入口のカードケースに，冊子体のものは低書架においてありますので御利用下さい。（参考係）

標 題	収録期間	備考
図書館・出版		
図書館建築に関する書誌	昭和20～53	冊子
レファレンス・サービス	1960～1974	カード
公共図書館の発展と図書館法についての論文のための書誌	～1975	カード
日本の公共図書館に関する書誌	1966～1972	カード
P T A 母親文庫に関する書誌	昭和25年以降—53	冊子
情報化社会における専門図書館の現状—役割と課題		カード
「読書」に関する書誌	昭和30～52	冊子
読書指導における集団主義教育の意義・目的		
日本の著作権・著作権法	1955～1974	カード
歴史・伝記・地誌		
高松塚古墳に関する書誌	昭和47～53	冊子
邪馬台国の所在に関する書誌	昭和40～53	冊子
新撰組に関する書誌	1967～1977	カード
東京都に関する書誌	昭和34～50.9	カード
選択自叙伝書誌	明治～昭和51	カード
長野県の雑紀行に関する邦文書誌	1970～1975	カード
社会学		
未来学		カード
自治体組織に関する書誌	1964～1974	カード
マス・コミに関する邦文書誌	戦後を中心に1974年頃	カード
日本の家族	昭和20～49	カード
婦人問題に関する書誌	明治～1975	カード
書誌：婦人運動で活躍した婦人の伝記	明治～1977	冊子
女性解放に関する書誌	明治以降特に戦後	カード
自殺に関する書誌	19世紀から昭和53	カード
児童福祉—心身障害児に関する書誌	戦後から52年	カード
官僚制としての学校組織	過去15年間	カード
大学の運営に関する臨時措置法についての書誌		カード
アイヌ民族の社会・風俗習慣に関する書誌	1965～1974	冊子
替女に関する書誌	1965—1977.10	冊子
「ねぶた」に関する書誌	昭和25～52	冊子
日本の昔話・伝説に関する書誌	昭和20～50	カード
「広島のみ話」に関する書誌	昭和9～50.6	カード
星の伝説に関する書誌	昭和20～52	冊子

各館だより

工学部分館より

工学部分館に望む

工・応化・前分館長 山下 忠孝

分館長に就任し、分館業務の輪郭がほぼ理解できるようになって第一に感じたことは、分館業務が工学部の教育と研究にどうかかわってきたか、そして将来どうあるべきかという問題であった。購入図書・雑誌の受け入れカード作成といった整理業務、貸出し、更新などの閲覧業務は図書館として基本的業務であろうけれども、工学部分館にとって、分館の機能を最大限に発揮し、教育に寄与するためには、レファレンス・サービスを強化充実させることが必要であると痛感した。欧米の

図書館の例を今更持ち出すまでもなく、教育の文献調査への協力、学生の読書指導に専心できるレファレンサーの養成こそが現在の分館に最も望まれる所である。第二に図書館業務、文献検索の機械化・電算化の問題がある。漢学・かな混りて電算化の難しい我が国に於ても、科学技術庁・国会図書館などが中心になって、東大の大型計算機の端末をおくことにより、この計算機の利用が可能になっており、文献検索においても威力を発揮しつつある。規模の小さい工学部分館の業務に電算化が早急に適用されるとは思えないが、近い将来の電算化時代に備えて「機械化に強い」館員になるように希望する。上述のレファレンサーの質も内容も変化せざるをえないであろうからである。

朝霞分館より

朝霞分館も開設後、既に2年経過した。その間、施設の狭さ、資料の不足(7000冊余で発足)人員不足に悩まされながら、閲覧、参考、雑誌部門の整備に力をそそいだ。実際のところ、他の部門には人を配置する余裕はなかったのであるが、今年4月の第2次移転にともなって、新校舎3階に移転を完了し、授業開始の4月11日、どうやら開館にこぎつけた。新図書館の規模は、旧館の2倍強である。(以下()内は旧館の数字)、図書収容能力は約6万冊(2万冊)座席数258席(132)ロッカー278名分(140)などとなっている。なお、総面積は1008m²(408)である。

今後は、教育用図書の充実と共に朝霞に腰をすえるであろう教員の皆さんのために研究用図書の受入れ体制の整備が必要となる。その他、製本雑誌の整理、視聴覚資料の収集、整理、利用も当面する課題である。しかし、なんといっても朝霞分館員の切なる希望は、書庫、共同研究室、視聴覚室などを備えた独立館の建設である。それはすべての図書館利用者の願いだと思ふ。

館員のひとことコメント

★ 朝霞分館は、冷暖房完備、カーペット付である。とはいえ、共同研究室、視聴覚室もなく、資料もまだ少ない。2万冊を超えるのは今年も後半だろう。だからといってばかにしてはいけない。図書館は使用法次第なのである。上手に利用した人は、卒業時には相当力をつけている。巧みに利用するコツの一つは、図書館員と仲良くなることだ。図書館員は利用法を知っており、親切なのである。(鹿島)

★ 早いもので、朝霞分館も3年目を迎えました。私、逐次刊行物(雑誌)業務を担当していますが、総ての面で利用者の要求を満たすことができるようになるまで、まだ日時を要するに思われます。

現在、逐刊業務は本館と分館の分担収集等の問題、整理全体の流れといったことなどが課題となっています。何分、若い分館ですので、皆様のご指導とご協力での芽を育てて下さいます様、お願い致します。(河田)

★ 朝霞分館と共に歩いて来た私。今年で、分館も私も3年目。毎朝、辞書体目録をファイルし

白山より

雑誌所蔵目録作成について

雑誌係では、雑誌の所蔵目録(冊子体)を作成するためにその作業を行っています。当館では所蔵目録作成の際、図書と雑誌はおのおの独立して作成するという方針がきめられました。すでに図書の方は、昨年全5巻、索引2巻が完成しています。雑誌については52年10月より準備を進め、昨年夏から具体的作業に入っています。

現在当館の雑誌目録としては、誌名・分類のカード目録があります。しかし、この目録は一覧性にとぼしい、請求記号が与えられている雑誌のみ収録、というような欠点があり、また、図書館間の相互利用の比重が全国的に増大している点からも、冊子体目録作成の必要が高まっています。

作業予定表は次のとおりです。

◆作業予定表◆

1. 編集会議(白山・朝霞)
 2. 編集方針決定
 3. 所蔵データ照合の準備
 4. 洋雑誌所蔵データ照合(自然科学を除く)
 5. 各研究室に参加呼びかけ
 6. 各研究室に所蔵データ照合依頼
 7. 和雑誌所蔵データ照合
 8. 全所蔵データ照合終了
 9. 原稿作成
 10. 印刷・校正・発行(予算化次第着手)
- (現段階1~6終了、現在7を行っています。)

収録範囲は、白山本館、白山各研究室(一部)、朝霞分館所蔵で雑誌扱いのものです。和洋ともヘボン式、アルファベット順排列で、内容は請求記号、誌名副誌名、シリーズ名、旧誌名、発行団体名、出版地、発行年、発行頻度、などの書誌データを記載の予定です。使いやすく、中味の濃い所蔵目録作成に向けて順調に作業を進めています。

(雑誌係・島村)



ていると、本の増えてゆくのが、正に手に取るようにわかり、決してこの蔵書数に満足しているわけではないが、それでも、よくこれまでになったナと思わずにはいられない。

皆さん! 目録を引きましょう。わからないことはカウンターへ。よろしく。(藤井)

★ 視聴覚ライブラリーを考えています!

まず第一に皆様の語学教養の一助にと、語学テープ等の資料の貸し出しを、第二に知識教養を深めてもらうため、16mm やスライド等の映写会の開催を計画しています。そして将来は、視聴覚室を設け、レコードコンサートをはじめとして、このライブラリーの目的に合った各種の行事を行っ

ていきたいと考えております。

どうぞご期待を! (矢野)

★ 新入職員として、朝霞勤務も2ヶ月になりました。同じ東洋大学とはいえ、今では、4年間通学した白山キャンパスより、朝霞校舎により多くの愛着を感じます。それは、朝霞には、喧噪とした都会にはない緑多き豊かな自然があるからです。白山の皆さん、そんな緑多き自然の中にある朝霞分館に、読書をしにいらっしやいませんか。お待ちしております。(千葉)

★ 発展途上分館からのメッセージです。

4年生へのメッセージ: 卒業するまでに、1度と言わず何度でも朝霞分館へ来て下さい。

3年生へのメッセージ: 入学時には大変、迷惑をおかけしました。でも飛躍的に進歩しました。また来て下さい。

2年生へのメッセージ: 昨年よりも、ずっと良くなったと思いませんか。本もふえたし、サービスマも良くなりましたよね。

1年生へのメッセージ: この現状を見てあきらめないで下さい。日々、先に進んでいます。わからないことはありませんか。何でも聞いて下さい。(平出)

(1ページより続く)

やがて日がさして来て、駅前広場に人影が見えるようになってきた。男は立ち上ってまだ話つづけていたが、「旦那は先生だろう。先生だって、父兄に高いぜに払えば息子を入学させてやるなどとやっているらしいな。その上生徒を狭い教室にとじこめていじめている。だが旦那はあんまりえらくなりそうもない。顔にそう書いてある」とお世辞？を云って、なおその辺をふらふら歩いていたが、いつの間にか町かどに姿を消してしまった。

この男の消え方は、能舞台であてやかにまたかなしく舞っていたシテが舞いおさめてしずかに橋がかりへ消えて行くのを連想させた。

彼の独断と偏見に満ちた話に賛成しているわけでもないのに、何か心にひっかかるものがあった、十年も経った今思い出すのはなぜだろう。

未明の駅前広場で発車時間を待っているという退屈の混じった空白の心の状態と、つきあったことのないタイプの人間の出現による虚をつかれたという感じのせいだろうか。

彼のことは多分彼の生活から組み上げられた、少くとも彼にとっての真実だからか。

数年前に図書館長だった後藤辰男先生が、旅と読書についてコスモスに書かれた文章がある。あの美しい文章を要約してしまうと台無しになるが、旅と読書とは心情において共通するものがあり、時間に制約のない夏休みに、読書によって、旅よりもむしろゆたかな心的冒険を試みてはどうかという趣旨だったと思う。

名所旧跡の古事来歴に通じた諸国行脚の僧には妖艶華麗な舞い姿が夢枕にあらわれ、えらくなりそうもない先生の旅先では勝手なことをひとりごとする男があらわれる。

予備知識を充分に持って書物を深くゆたかに味わうのもよいだろう。何の予備知識もなく、何があらわれるかも予期せずに、自分の馴れ親しんできたのと全くちがう物の見方、生き方にふれて驚くのもよいだろう。

ある卒業生が山小屋で「先生、こんな話は知ら

ないでしょう」と云って、当時有名だったらしいマンガの主人公の話をくわしく説明してくれて、「ぼくはこの男の生きざまというか、人間性まる出しのキャラクターにすごく共感するんです」と云ったことがある。バカにする人が多いマンガにもこういう読者が居ることを、このとき教えられた。彼の名誉？のために云っておきたいのは、彼は文学、思想、宗教などのかかなり広い読書を通じて、また若干の実践運動を通じて、現代の社会の中で自分はどう生きるべきかをいつも問題にしている男で、マンガもその小さな一環にすぎないということである。

心の柔軟な若いうちにできるだけ多くの本を味わってもらいたいと思う。読書ってホントにスバラシイものですよ。

館内だより

(54年3月16日～6月12日)

▶研修・分科会等◀

3.16 閲覧奉仕分科会 3.31 書誌学分科会 4.19
レファレンス分科会 4.20 逐次刊行物分科会 4.
27 理工学分科会 5.7～14 館内新人研修 5.11
閲覧奉仕分科会 5.14 書誌作成分科会 5.24 レ
ファレンス分科会 5.25 理工学分科会 5.26 書
誌学分科会 6.12 書誌作成分科会

▶館内・外諸会議◀

4.4 工学部分館連絡会 4.11 図書館運営委員会
4.19 工学部分館運営委員会 4.24 全国図書館団
体連絡会議(於国立国会図書館) 4.25 白山連絡
会 5.16 白山連絡会 5.23 工学部分館連絡会
5.30 日本図書館協会総会大学図書館部会(於日本
図書館協会)

▶人事◀

水口靖・関矢ひとみ(図書課) 直井明子(整理課) 田
辺陸夫(工学部分館) 矢野元・千葉信一(朝霞分館)
以上4月1日付で配属

▶来館者◀

5.7 榎原 悟氏(サントリー美術館) 5.28 桜井
伝氏(東北学院大学図書館・事務長)

▶その他◀

朝霞分館・新校舎(二号館)へ移転(4.2～4)
視聴覚室主催写真会 作品:どですかでん(5.23)
会計監査(白山5.10, 工学部分館5.11, 朝霞分館5.
12)

なお、このたび東洋大学図書館は、私立大学図書
館協会常任理事校並びに東地区部会担当理事校とし
て2年間その職務を担うことになりました。